

1/22(土) まいど! 倫理号です。朝マズメ、夕マズメと昔から良聴言葉です。『なまほど』
実際に釣るための準備は、朝マズメ、夕マズメと昔から良聴言葉です。『なまほど』
に釣る。その準備は、朝マズメ、夕マズメと昔から良聴言葉です。『なまほど』
卓也 城谷俊也

2022. 1. 22~1. 28

今週の

倫理

1月のテーマ | あざやかなスタートを切る

1265号

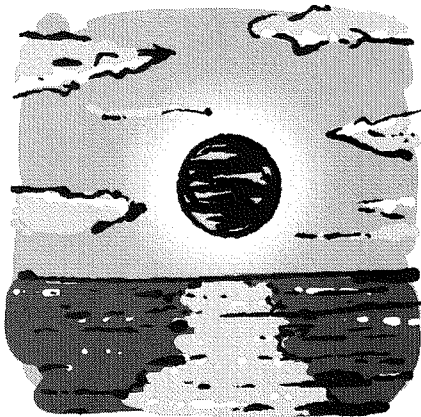
仕事上で事前準備の重要性を説いた「段取り八分・仕事二分」という格言があります。語源は諸説ありますが、歌舞伎の芝居で幕と幕の間の区切りのことを「段」、そして芝居運びや構成を「段取り」と言い、段取りが良いと素晴らしい芝居につながることから、この諺が生まれたといわれています。

釣りを趣味とするCさん。狙った獲物が釣れた時の達成感、大物との格闘で釣り上げた際の高揚感、また大自然から毎回、様々な気づきを得られる充実感など、その魅力と奥深さに虜になっています。

釣り用語に「朝マズメ、夕マズメ」という言葉があります。朝マズメとは、夜明け間際から日の出までの前後一時間程を指し、その時間帯は魚が餌を求めて活性化するため、魚が釣れやすくなります。反対に、夕マズメは、日の入り前後の魚が活性化する時間帯を指します。マズメの語源は、日の出・日の入り前後の太陽が水平線に近づき、「間を詰める」状態である「まづめ」に由来します。

釣りが趣味のCさんは朝マズメを狙って釣りに出かけることが多くあります。前日に釣り道具などの準備をして、翌朝、暗いうちから車で釣り場まで出かけていくのです。

ここ最近仕事を立て込んでいてなかなか釣りに行けませんでしたが、仕事の合間を縫ってようやく週末に行くことにしました。釣りの前日、帰宅したら翌朝の準備をしようと思っていました。疲れに身を任せ、そのまま床についてしまいました。



仕事も余暇も 段取りが八分の成就

翌朝四時前に起床し、慌ただしく準備をして、車で釣り場まで向かいました。何とか朝マズメの時間帯には間に合いましたが、いつも持ってきているヘッドライトがありません。仕方なくスマートフォンライト機能で手元を照らし、釣りの仕掛けをセットします。ヘッドライトがあれば、すぐに準備できるところがタイムロスになってしまいました。周りでは釣り人たちが釣り上げている光景が目に見え、焦りが募ります。

そして準備終了後、釣り開始です。遅れを取り戻そうと、はやる気持ちを必死に抑えながら、魚を誘うように釣竿を上下に揺らし、魚が食いついてきたのです。すぐに釣り上げ、次を釣るぞと、魚がくわえた仕掛けを外そうとしますが、仕掛けが絡まり、また一から仕掛けの付け直しです。その後も針が服にひっかかったりと、いつにも増してトラブルが相次ぎ、スムーズに釣りを楽しめませんでした。

朝マズメの時間帯が終わり、Cさんはなげ立て続けにトラブルが相次いだのか振り返って見ました。すると、いつもなら事前に行なっている準備がおろそかになり、そこからリズムが崩れたことに思いました。常日頃より、Cさんは部下には「入念な準備で仕事に当たりなさい」と言っておきながら、余暇の時間とはいえ、出来ていない自分に苦笑いしてしまいました。

改めてCさんは様々なことを教えてくれる釣りの魅力と共に、「段取り八分・仕事二分」を実感しながら家路に着いたのでした。